

ドイツ語文法プロフィール

成田 節
東京外国語大学外国語学部教授

1. 文法プロフィールの対象者

この文法プロフィールは、日本の大学で初修外国語としてのドイツ語を履修する学生を主な対象としている。1年目に学生が受けるドイツ語の授業時間は、90分で週2回、年間で24～30週程度というのが標準的であると思われる。この内の半分ないし三分の二程度が「文法」の学習に当てられるものと想定して、この文法プロフィールで扱う項目および分量を案出した。

以下に提示する文法項目を学習しながら、並行して「初級購読」などの授業を受けることで、ドイツ語の読解および作文の基礎が一通り学習できる。このようにしてドイツ語の基礎を学習した上で、引き続き2年目以降も読解、作文などの練習を積み重ね、同時に基礎的な語彙を習得することにより、2年間の学習を無事に終えた後には、辞書の助けを借りながら、実用的文書、エッセイ、雑誌、新聞などの「生の」ドイツ語文章をかなり正確に読解でき、身の回りのことについてドイツ語で作文できるようになる、というのが現実的な目標である。

下に提示する文法プロフィールは、あくまでもそのための文法に関する基礎を作るものである。「話す」と「聞く」については、また別の訓練が必要であることは言うまでもないが、文法および語法に関しても、「生の」ドイツ語の文章を全く正確に読解し、読み手に正確に伝わるドイツ語の文章を作成するためには、このプロフィールに挙げた項目では不十分である。しかし、ドイツ語の高度な運用に必要な文法の詳細までを、学習開始から1年や2年で一気に習得するということは大半の学習者にとって不可能であると思われる。高度な運用能力を身に付けるためには本格的な学習・訓練が必要だが、その学習・訓練を可能とするための文法の基礎を示すというのが、このプロフィールの意図である。

なお、学習対象者は既に中学・高校で英語を学んでいるということを前提とする。したがって「現在完了形」「関係代名詞」など、英語学習を通じて学習者にとって既知の用語は既知のものとして取り扱う。ただし、用語の意味するところが英語とドイツ語では異なることもあるので注意が必要である。

2. 記述レベルに関する個別言語的特徴

この文法プロフィールは84の学習項目から成り立っている。「形態レベル」「統語レベル」といった文法項目の記述レベルは、必ずしも明確に区分できるわけではないが、全体の大まかなバランスを見るために、区分を試みた。しかし、たとえば「話法の助動詞」という文法項目では形態レベルの説明（話法の助動詞に特有の現在人称変化）と統語レベル説明（助動詞と本動詞の配置）がどちらも同程度に重要であると考えられるので、「形態・統語レベル」とした。また、「非人称動詞」および「非分離動詞」は、学習項目としては不可欠だと思われるが、形態レベルにも統語レベルにも位置づけにくいので、「語彙」レベルとした。同じような観点から、「分離動詞」および「再帰動詞」は「語彙・統語レベル」に位置づけた。このようにして得られた記述レベルごとの内訳は以下の通りである。

- (1) 形態レベル：32項目（動詞関連15項目，名詞・代名詞・冠詞・形容詞関連15項目，その他2項目）
- (2) 形態・統語レベル：9項目（動詞関連4項目，形容詞関連3項目，代名詞関連2項目）

- (3) 語彙レベル：2 項目（非人称動詞，非分離動詞）
- (4) 語彙・統語レベル：2 項目（分離動詞，再帰動詞）
- (5) 統語レベル：39 項目

形態レベルは 32 項目，形態・統語レベルを含むと 41 項目と，全体のほぼ半数に達するが，これは語形変化に関する項目を通常の場合よりも細分化したことによる。学生へのアンケートによると，「ドイツ語の文法は難しい」という印象が一般的にあるようだが，ドイツ語学習の初期段階で，動詞，名詞，代名詞，冠詞，形容詞などの語形変化を相当の分量学習しなければならないということにその主な原因があるように思われる。従ってこのプロファイルでは，学習の初期段階で語形変化を着実に習得できるように，通常の数より項目立てよりも細分化した。たとえば，動詞の直説法現在人称変化は通常の 3 項目程度（規則動詞で 1 項目，sein と haben で 1 項目，幹母音の変わる動詞で 1 項目）に対して 7 項目を立て，主語の人称や重要動詞ごとに一つ一つ段階的に学べるように組み立ててある。

統語レベルも 39 項目，形態・統語レベルおよび語彙・統語レベルも合わせると 50 項目と，全体の 6 割に達するが，これも，着実な学習を可能にするために，個々の項目を細分化したことによる。なお，統語レベルに分類した項目も，完了形，受動態，接続法など，形態レベルの項目を前提とするものが多く，純粹に統語レベルの項目というわけでもない。したがって，学習者の目には，やはり「語形変化」を覚えるということが，初級レベルにおけるドイツ語文法の学習の実質的な内容であると写るものと思われる。

3. 品詞分類，カテゴリー分類に関する個別言語的特徴

プロファイルの「品詞分類」欄に出てくる品詞を頻度順に並べると以下のようになる。

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|------------|
| (1) 動詞 44 | (4) 名詞 9 | (7) 前置詞 6 | (10) 疑問詞 1 |
| (2) 代名詞 18 | (5) 冠詞類 8 | (8) 副詞 4 | |
| (3) 形容詞 10 | (6) 助動詞 6 | (9) 接続詞 3 | |

動詞が 44 回と突出し，以下，代名詞（18 回），形容詞（10 回），名詞（9 回），冠詞類（8 回）と続く。動詞の頻度が抜きん出て高いのは，ドイツ語では（でも）やはり動詞が構文の要となっていることの現れだと考えられる。また，曲用（declension）の系列で代名詞（18 回）の頻度が名詞（9 回）の 2 倍になっているのは，語形変化の多様さの違いと，代名詞の出現頻度の高さの現れだと考えられる。冠詞類も使用頻度は高いが，属する語数は代名詞ほど多くない。また，形容詞（10 回）も，学習者の感じる「ドイツ語文法の難しさ」と一致していると考えられる。

プロファイルの「カテゴリー分類」欄に出てくる項目は，「カテゴリー」の基準が必ずしも明確ではなかったこともあり，上位のいくつかを除いて，有意な項目分布が見られたとは言えないが，上位の 3 項目，すなわち

- (1) 格 24 回（内訳は格変化 16，格 4，格支配 4），
- (2) 語順 22 回
- (3) 人称変化 15 回

という分布を見ると，初級レベルのドイツ語文法においては，「名詞句・代名詞の格変化」「動詞の人称変化」「語順」が三本の柱であるというドイツ語教員の実感を裏付けることができると考えられる。

4. 内容に関する個別言語的特徴

「2. 記述レベルに関する個別言語的特徴」でも言及したように、文法項目を細分化することにより、学習者が初期段階でつまづかないように配慮するというのが、このプロフィールの一つの特徴である。たとえば前置詞は、従来の多くの教材では、2格支配、3格支配、4格支配、3・4格支配という4グループの前置詞を同一の課にまとめ、例文を十分に挙げることはまれであった。これは、「格支配」という現象を説明しておいて、「後はそのつど辞書に当たれ」という考えに基づくと思われる。たしかに前置詞については、「格支配」という現象さえ理解してしまえば、後は個々の語として学習するものであるから、このような考え自体は基本的に正しい。しかし、前置詞は格と同程度に文法的な働きを担うことも少なくないということを考え合わせると、文法学習における項目としても、ある程度は充実させる方が実用的だと思われる。このプロフィールでは「前置詞」の4項目がほぼ連続して並んでいるが、「前置詞(1)」から「前置詞(4)」までを別項目としたことにより、実際の授業では「015 動詞の現在人称変化(7)」⇒「016 前置詞(1)」⇒「019 格の表示(3) — 定冠詞類」⇒「017 前置詞(2)」⇒「020 格の表示(4) — 不定冠詞類」⇒「018 前置詞(3)」といったように組み立てることができる。これにより、30余りの前置詞を一度に提示して不要な混乱あるいは学習意欲の減退を招くことをさけることができると同時に、細分化された文法項目を組み合わせることによって、未習文法項目を先取りせず、説明や練習に用いる例文を豊かなものにすることも可能となる。

前置詞と同様に、話法の助動詞も「028 話法の助動詞(1) — können と müssen」「029 話法の助動詞(2) — wollen と möchte (mögen)」「030 話法の助動詞(3) — sollen と dürfen」「031 未来形と推量の表現 — werden よる「未来形」；müssen や können による推量の表現」というように細分化してある。これは単に学習内容を分量の面で分割しただけではなく、(1)は「できる」と「ねばならない」、つまり内的・外的な状況による実現可能性・実現必要性の表現であり、(2)は「するつもりだ」や「したい」という主語の「意志・意図・希望」の表現であり、(3)は「するべき」および「してもよい」という、主語以外の人物の「意志・意図・希望」および「許可」の表現であり、(4)は「推量」に関する表現である、というように内容的にも関連する助動詞を組み合わせて、学習の効率化を図っている。さらに、従来の教材では等閑視されがちであった語用論的側面（たとえば wollen は「誘いかけ」によく使われる、など）を考慮に入れた例文が提示されるなど、より実用的な方向で考えられている。

5. 文法プロフィールの課題・問題点

文法項目を細分化することにより、煩雑な印象を与えかねない語形変化やドイツ語特有の語順（従属文における定動詞の後置、助動詞構文などにおける「枠構造」など）の学習を効率化し、同時に学習者の負担を軽減するというのが基本的な考え方であるが、他方、この考え方にもとづいて作成したプロフィールでは、従来の教材に比べて、個々の項目の分量が増加しがちであり、従来の授業時間数の枠組みでは学習し切れない可能性も大きくなる。そこで、文法項目を再度見直して、本当に初級レベルで必要な項目は何か、初級レベルでは取りあえず後回しにできる項目は何かという、より一層適切な選択が必要になってくる。従来の教材に比べれば、このプロフィールでもすでに「人称代名詞の2格」「話法の助動詞の完了形」「相関接続詞」「現在分詞」「未来受動分詞」などは項目として含んでいないが、量的にはさらに項目の削減、あるいは次のレベルへの先送りも必要だと考えられる。

また、語彙の学習と文法の学習を適切に関連付けることも、今後に残された大きな課題である。語彙なしでは文法の学習もあり得ず、逆に、適切な語彙が用いられれば文法の学習もより豊かなものになる（つまり、文法学習と語彙学習が有機的に関連付けられることにより、学習のそ

れぞれの段階で、学習したことを実際に学習者同士でより大きな実感を伴って使用してみることもできる) はずである。さらに、従来は文法学習が一つの自律的な分野と見なされる傾向があったように思えるが、学習者にとってのドイツ語学習全体に文法学習を組み込むことも視野に入れて考えていく必要があると思われる。

6. 文法プロフィール作成に利用した参考文献一覧

岡本順治 (2004) 『ドイツ語文法へのプロローグ』, 郁文堂.

在間 進 (2002) 『現代ドイツ語 初級文法篇』, 郁文堂.

清野智昭 (2004) 『ドイツ語の時間 文法篇』, 朝日出版.

椿 鐵夫, 成田 節 (2002) 『新訂・入門初級ドイツ文法』, 同学社.

成田 節 (2000) 『練習で覚えるドイツ語初級文法』, 郁文堂.

Eichheim, H./G. Storch (2000). Mit Erfolg zum Zertifikat Deutsch, Übungsbuch, Ernst Klett, Stuttgart.

7. ドイツ語文法プロフィール（内容）

記述レベル	番号	文法テーマ	品詞分類	カテゴリー分類	内容
形態	001	動詞の現在人称変化(1)	代名詞, 動詞	人称変化(直説法現在形)	1人称と2人称(敬称), 語幹と語尾, 不定形(不定詞)と定形(定動詞)
形態	002	動詞の現在人称変化(2)	代名詞, 動詞	人称変化(直説法現在形)	2人称(親称), 語尾の調整(口調上の e など)
形態	003	動詞の現在人称変化(3)	代名詞, 動詞	人称変化(直説法現在形)	3人称, 語尾の調整(口調上の e)
統語	004	定動詞の位置(1) — 平叙文	動詞	語順	不定形(不定詞)と定形(定動詞); 平叙文では定動詞第2位, 文頭が主語とは限らない
統語	005	定動詞の位置(2) — 疑問文	動詞	語順	補足疑問文も定動詞第2位, 決定疑問文は定動詞文頭; wer, was, wann, wo, wie, warum; ja, nein, doch
形態	006	動詞の現在人称変化(4)	動詞	人称変化(直説法現在形)	sein の現在人称変化と用法
形態	007	動詞の現在人称変化(5)	動詞	人称変化(直説法現在形)	haben の現在人称変化と用法
形態	008	動詞の現在人称変化(6)	動詞	人称変化(直説法現在形)	werden の現在人称変化と用法
形態	009	名詞の性	名詞, 冠詞, 代名詞	性	男性名詞・女性名詞・中性名詞(単数形) 名詞の性に応じて, 冠詞や代名詞の形が異なる
形態	010	名詞の複数形の作り方	名詞, 冠詞, 代名詞	数	複数形の5タイプ: 無語尾型, E型, ER型, N型, S型

統語	011	4つの格	名詞, 冠詞, 代名詞	格	1格(主格)・2格(属格)・3格(与格)・4格(对格)の基本的な用法, 日本語の「が」「の」「に」「を」との関係
形態	012	格の表示(1)	定冠詞, 名詞	格変化	定冠詞と名詞の格変化, 男性弱変化名詞
形態	013	格の表示(2)	不定冠詞, 名詞	格変化	不定冠詞と名詞の格変化(単数形), 不定冠詞は複数形なし
統語	014	ドイツ語の文を作る手順(1)	動詞, 名詞, 他	語順	文成分を日本語と同じように並べ, 最後にある動詞を定形に変化させて2番目(または1番目)へ移動
形態	015	動詞の現在人称変化(7)	動詞	人称変化(直説法現在形)	fahren (fährt) と lesen (liest)のように幹母音が変わる動詞
統語	016	前置詞(1)	前置詞	格支配	前置詞の格支配, 主な2格支配の前置詞の意味
統語	017	前置詞(2)	前置詞	格支配	3格支配前置詞の主な意味; 前置詞と定冠詞との融合形 (beim, vom, zum, zur)
統語	018	前置詞(3)	前置詞	格支配	4格支配前置詞の主な意味; 前置詞と定冠詞との融合形 (durchs, fürs, ums)
形態	019	格の表示(3) — 定冠詞類	冠詞類	格変化	dieser, welcher, jeder, jener, solcher, aller
形態	020	格の表示(4) — 不定冠詞類	冠詞類	格変化	所有冠詞(mein, dein, sein ...), 否定冠詞(kein)
統語	021	前置詞(4)	前置詞	格支配	3格と4格の使い分け; 3・4格支配前置詞の主な意味; 定前置詞と冠詞との融合形 (am, ans, im, ins ...)
形態	022	人称代名詞の3格と4格(1)	代名詞	格変化	1人称と2人称(親称)

形態	023	人称代名詞の3格と4格(2)	代名詞	格変化	3人称と2人称(敬称)
形態	024	da[r]+前置詞	代名詞, 前置詞	結合形	前置詞と人称代名詞の結合形: darauf, davon, dazu など
形態	025	da[r]+前置詞	代名詞, 前置詞	結合形	前置詞と was の結合形: worauf, wovon, wozu など
形態	026	命令の表し方	動詞	命令法, 語順	Arbeite! Arbeitet! Arbeiten Sie!
語彙	027	非人称動詞	動詞	非人称動詞	Es regnet. Wie geht es Ihnen? Es gibt ～. など
形態・ 統語	028	話法の助動詞(1)	助動詞	人称変化(直説法現在形), 語順	können と müssen の主な用法; 本動詞は文末
形態・ 統語	029	話法の助動詞(2)	助動詞	人称変化(直説法現在形), 語順	wollen と möchte (mögen)の主な用法
形態・ 統語	030	話法の助動詞(3)	助動詞	人称変化(直説法現在形), 語順	sollen と dürfen の主な用法
統語	031	未来形と推量の表現	助動詞	人称変化(直説法現在形), 語順, 意味	werden による「未来形」; müssen や können による推量の表現
語彙・ 統語	032	分離動詞	動詞	語順	平叙文 (Ich stehe um 7 Uhr auf.), 疑問文 (Wann stehst du auf?), 命令文 (Stehe auf!)
語彙	033	非分離動詞	動詞		主な非分離前綴り (be-, ge-, er-, ver-, zer-, ent-, emp-); 分離・非分離前綴り (durch, über, um, unter)
統語	034	定動詞の位置(3) — 従属文(1)	接続詞	語順	従属文では定動詞後置; 主な従属接続詞 (dass, weil, wenn, obwohl など)

統語	035	文や語句の並列接続	接続詞	語順	主な並列接続詞(und, aber, oder, denn など)
統語	036	定動詞の位置(4) — 従属文(2)	動詞, 助動詞	語順	分離動詞, 助動詞構文の場合の従属文内の語順
統語	037	定動詞の位置(5) — 従属文(3)	疑問詞, 接続詞	語順	直接疑問文と間接疑問文, Weißt du, wo er wohnt? Weißt du, ob er kommt?
形態	038	動詞の3要形(1)	動詞	過去基本形, 過去分詞	規則動詞(弱変化動詞)
形態	039	動詞の3要形(2)	動詞	過去基本形, 過去分詞	不規則動詞(強変化動詞)
形態	040	動詞の3要形(3)	動詞	過去基本形, 過去分詞	不規則動詞(混合変化動詞)
形態	041	過去分詞の注意点	動詞	過去分詞	分離動詞の過去分詞(例 aufgestanden), ge-の付かない過去分詞(例 bestanden)
形態	042	動詞の過去人称変化	動詞	人称変化(直説法過去形)	過去人称語尾;過去形の用法(主として書き言葉で), 話し言葉でも過去形を用いる動詞
統語	043	完了形(1)	動詞	現在完了形, 語順	現在完了形の作り方;過去形との使い分け
統語	044	完了形(2)	動詞	完了の助動詞	haben 支配と sein 支配;主な sein 支配の動詞
統語	045	完了形(3)	動詞	過去完了形	過去完了形の用法(過去形と組合せて, 出来事の前後関係を明示)
統語	046	完了形(4)	動詞, 助動詞	語順	完了不定形;助動詞と完了不定形の組合せ(Er wird/muss/kann den Brief gelesen haben.)

形態	047	形容詞の格変化(1)	形容詞	格変化	定冠詞・定冠詞類＋形容詞＋名詞
形態	048	形容詞の格変化(2)	形容詞	格変化	不定冠詞・不定冠詞類＋形容詞＋名詞
形態	049	形容詞の格変化(3)	形容詞	格変化	無冠詞＋形容詞＋名詞
統語	050	zu 不定詞句 (1)	動詞	語順	zu 不定詞句の作り方(文成分の並べ方);分離動詞の zu 不定詞
統語	051	zu 不定詞句 (2)		構文	zu 不定詞[句]の用法:主語として, 目的語として, 名詞修飾として
統語	052	zu 不定詞句 (3)		構文	zu 不定詞[句]の用法:um＋zu 不定詞句(目的を表す)など
形態	053	再帰代名詞	代名詞	格変化	目的語としての用法, 所有の3格, 利害の3格
語彙・統語	054	再帰動詞	動詞	構文	主な再帰動詞(sich ärgern 怒る, sich freuen 喜ぶ, sich ändern 変わる);他動詞との関係;前置詞で目的語表示
形態	055	形容詞の名詞化(1)	形容詞	格変化	男性単数形(der Kranke 男の病人), 女性単数形(die Kranke 女の病人), 複数形(die Kranken 病人たち)
形態	056	形容詞の名詞化(2)	形容詞	格変化	中性単数形(etwas Neues 何か新しいこと, nichts Neues 何も新しいことは…ない)
形態・統語	057	色々な代名詞	代名詞, 冠詞類	格変化	指示代名詞(der, dieser など), 不定代名詞(man, einer など), 冠詞類の独立用法
形態	058	形容詞の比較変化	形容詞	比較変化	比較級と最上級の作り方

形態・ 統語	059	比較級と最上級の用法(1)	形容詞	格変化	付加語的用法:比較級・最上級の語尾の後ろに格語尾を付ける
形態・ 統語	060	比較級と最上級の用法(2)	形容詞	構文	述語的用法:比較対象を表示する als;Er ist der reichste/ am reichsten..
形態・ 統語	061	比較級と最上級の用法(3)	形容詞, 副詞	構文	副詞的用法:比較対象を表示する als;Er trinkt Bier am schnellsten.
統語	062	その他の比較表現	形容詞, 副詞	構文	Sie ist <u>so</u> alt <u>wie</u> er.彼女は彼と同じ年だ; Je schneller, desto besser.速ければ速いほど良い などの表現
統語	063	受動文(1)	動詞	受動態, 語順	受動文の作り方(現在形と過去形)
統語	064	受動文(2)	動詞	受動態, 語順,	受動文の作り方(完了形);受動の助動詞 werden の過去 分詞は worden で sein 支配
統語	065	受動文(3)	動詞	受動態, 助動詞	受動不定;受動不定形と助動詞の組合せ(Das Auto muss/soll/kann gewaschen werden.)
統語	066	受動文(4)	動詞	受動態	能動態と受動態の対応関係(4格目的語⇒主語), 意味 の違い;動作主の表示
統語	067	受動文(5)	動詞	受動態	自動詞の受動文(Am Sonntag wird nicht gearbeitet.日曜 日は仕事をしない);日本語の受身との違い
統語	068	受動文(6)	動詞	受動態	状態受動の作り方と意味
統語	069	ドイツ語の文を作る手順(2)	動詞, 名詞, 他	語順	助動詞構文でも, 文成分を日本語と同じように並べ, 最 後にある助動詞を定形にして2番目(1番目)へ移動
統語	070	ドイツ語の文を作る手順(3)	副詞	語順	否定を表す nicht の位置:Er kommt heute nicht.「彼は今 日来ない」と Er kommt nicht heute.「彼は, 今日 は来ない(が, 別の日に来る)」など。

統語	071	関係文(1)	代名詞	語順	関係文の作り方(原則として先行詞の直後に置く, 従属文なので定動詞後置, コンマで区切るなど)
形態・統語	072	関係文(2)	代名詞	格変化	定関係代名詞の形:性・数は先行詞と一致, 格は関係文内の文法関係による
統語	073	関係文(3)	代名詞, 副詞	格変化(wer), 語順	wer nicht arbeitet 働かない者は; was du gesagt hast 君が言ったこと; wo ich gewohnt habe 私が住んだ所 など
形態・統語	074	接続法(1)	動詞	人称変化(接続法)	接続法の概観:2つの形式(I式・II式)と3つの用法(間接話法, 非現実話法, 要求話法)
形態	075	接続法(2)	動詞	人称変化(接続法第1式)	接続法第1式の作り方
形態	076	接続法(3)	動詞	人称変化(接続法第2式)	接続法第2式の作り方(規則動詞は過去形と同一)
統語	077	接続法(4)	動詞	間接話法	原則は接続法第I式, ただし接続法第2式を使う場合も; 過去時制には完了形を用いる
統語	078	接続法(5)	動詞	非現実話法	接続法第II式を用いる; 過去時制には完了形を用いる; würde+不定詞による書換え
統語	079	接続法(6)	動詞	非現実話法	条件文で願望表現, 条件を表す前置詞句, 助動詞と組合せて「すべきだった」「あやうく〜だった」など
統語	080	接続法(7)	動詞	非現実話法	控えめな表現(Es wäre nett von Ihnen, wenn Sie mir helfen könnten), 慣用的な表現(Ich hätte gerne ...)など
統語	081	接続法(8)	動詞	要求話法	接続法第I式を用いる, 主に慣用句で用いられる
統語	082	格の用法(1)	名詞, 代名詞, 動詞	格, 動詞の結合価	1格の用法:主語, 述語内容語, 呼びかけ

統語	083	格の用法(2)	名詞, 代名詞, 動詞	格, 動詞の結合価	3格の用法:間接目的語, 所有の3格, 利害の3格
統語	084	格の用法(3)	名詞, 代名詞, 動詞	格, 動詞の結合価	4格の用法:直接目的語, 副詞成分